


















おつとめ

(ふぎん 諷經)

本堂にて諷經をします。読經の作法とマナーをメモしています

開始の合図 山門の大梵鐘^{ぼんしょう}を、ゆっくり等間隔で9度撞きます。最初の7打目までは中音で撞き、8打目は小さく、9打目は間を置かずに大きく撞く。

諷經

- ① 導師が叉手して進前^{しんぜんさしゅ}（進前叉手）し、合掌低頭して2回焼香します。
- ② 導師が一步下がって合掌低頭したときに引磬^{いんきん}を1回鳴らします。
導師が合掌低頭して座に戻ってきた^{き い がっしょう}（歸位合掌）ら、引磬^{いんきん}を再度鳴らします。
- ③ 導師より「ご本尊様に合掌します」の声がけで、参禅者も合掌します。引磬^{いんきん}を転置^{てんじょう}します。
*転置^{てんじょう}とは、連続して鳴らすこと
- ④ 導師の合掌低頭にあわせ引磬^{いんきん}1打目が鳴り、参禅者も合掌低頭します。導師はその後合掌低頭してさらに2拝するが、引磬^{いんきん}2打目で参禅者も合掌低頭します。
3拝目は導師の低頭にあわせ引磬^{いんきん}3打目に続き^{いんきん}4打目が鳴り、参禅者も合掌低頭します。
- ⑤ 導師が再度進前（進前叉手）し、合掌低頭して2回焼香します。 *ここから般若心經のおつとめ
- ⑥ 焼香を終わり導師が戻り合掌低頭の時、鑿子^{けいす}を1回鳴らします。
- ⑦ 導師より「般若心經^{どくじゅ}を読誦致します」の声がかかります。
導師の1拝目で鑿子^{けいす}2声目を鳴らします。
- ⑧ 導師の2拝目で鑿子^{けいす}3声目、3拝目で鑿子を止め^{がツ}（ガツ）、その後木魚^{ぼくご}を鳴らします。
- ⑨ 導師が「摩訶般若波羅蜜多心經」と唱えたあと、鑿子^{けいす}を鳴らします。
- ⑩ 般若心經文（青地部分から）を導師と一緒に^{ふぎん}諷經します。 裏面の般若心經文を参照。
- ⑪ 般若心經が終わると回向^{えこう}します。途中、参禅者は合掌低頭します。 裏面の回向文を参照。
- ⑫ 回向が終わると、略三宝^{りやくさんぼう}を唱えます。 裏面の略三宝文を参照。
略三宝の途中より導師が進前し、2回焼香をします（①）
導師が一步下がって合掌低頭したときに引磬^{いんきん}を1回鳴らします。
導師座に合掌して戻ったら（歸位合掌）引磬^{いんきん}を再度鳴らします。（②）
導師より「ご本尊様に合掌します」の声がけで、参禅者も合掌し、引磬^{いんきん}を転置します。（③）
導師の3拝にあわせ、引磬^{いんきん}のあと 参禅者も合掌低頭します。（④）

お経の文言

般若心経



摩訶般若波羅蜜多心経

かんじーざいぼーさつ ぎょーじんはんにやーはーらーみーたーじー しょうけんごー おんかいくーどーいっさいくーやく しゃーりーしー
観自在菩薩 行 深般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空度一切苦厄 舍利子
しきふーいーくー くーふーいーしき しきそくぜーくー くーそくぜーしき じゅーそーぎょーしきやくぶーによーぜー しゃーりーしー
色不異空 空不異色 色即是空 空即是色 受想行識亦復如是 舍利子
ぜーしょーほーくーそー ふーしょーふーめつ ふーくーふーじょー ふーぞーふーげん ぜーこーくうーちゅー むーしき むーじゅーそーぎょーしき
是諸法空相 不生不滅 不垢不淨 不增不減 是故空中 無色 無受想行識
むーげんにーびーぜっしんいー むーしきしょーこーみーしよくほー むーげんかい ないしーむーいーしきかい むーむーみょーやく むーむーみょーじん
無眼耳鼻舌身意 無色声香味触法 無眼界 乃至無意識界 無無明亦 無無明尽
ないしーむーろーしー やくむーろーしーじん むーくーしゅーめつどー むーちーやくむーとく いーむーしーとくこー ぼーだいさつーたー
乃至無老死 亦無老死尽 無苦集滅道 無智亦無得 以無所得故 菩提薩埵
えーはんにやーはーらーみつーたー こー しーむーけーげー むーけーげーこー むーうーくーふー おんりーいっさいてんどーむーそー
依般若波羅蜜多故 心無罣礙 無罣礙故 無有恐怖 遠離一切顛倒夢想
くーきょーねーはん さんぜーしょーぶつ えーはんにやーはーらーみーたー こー とくあーのくたーらーさんみゃくさんぼーだい
究竟涅槃 三世諸仏 依般若波羅蜜多故 得阿耨多羅三藐三菩提
こーちーはんにやーはーらーみーたー ぜーだいじんしゅー ぜーだいみょーしゅー ぜーむーじょーしゅー ぜーむーとーどーしゅー のうーじょーいっさいくー
故知般若波羅蜜多 是大神呪 是大明呪 是無上呪 是無等等呪 能除一切苦
しんじつふーこー こーせつはんにやーはーらーみーたーしゅー そくせつしゅーわつ ぎゃーてー ぎゃーてー はーらーぎゃーてー
真実不虛 故説般若波羅蜜多呪 即説呪曰 羯諦 羯諦 波羅羯諦
はらそーぎゃーてーい ぼーじーそわか はんにやーしんぎょー
波羅僧羯諦 菩提薩婆訶 般若心経

* 一文字ごとに心をこめて を叩きます

回向文

じょうらい ま か はんにや は ら みつたしんぎょう ふ じゅ くどく
上來摩訶般若波羅蜜多心経を諷誦する功德は (参禅者は合掌低頭)
だいおんきょうしゅほんししゃ か む にぶつ こうそじょうようだいし たいそじょうさいだいし くよう
大恩教主本師釋迦牟尼仏、高祖承陽大師、太祖常濟大師に供養し奉り (低頭終了)
むじょうぶつかぼだい しょうごん し おんすべ ほう さんぬひと たす
無上仏果菩提を莊嚴す。伏して願くは四恩総て報じ、三有齊しく資け
ほっかい うじょう しゅち まどか
法界の有情と同じく種智を円にせんことを

* 太字部分は合唱低頭してとなえます

(冀う処は、本日参詣の善男善女に各々家門繁栄、子孫長久、災障消除、諸縁吉祥ならんことを) * オプション

略三宝

じーほーさんしーいーしーふー しーそんぶーさーもーこーさー もーこーほーじゃー ぼーろーみー
十方三世一切仏、諸尊菩薩摩訶薩、摩訶般若波羅蜜